

楽しい交流！ 実のある交流！！

交流を考える部会長 坂原広重

平成27年の活動は後半に入っております。昨年来、スイカが縁で飯山市の温井村づくり委員会との相互交流が始まり、9月10日に訪問が実現しました。人口200人足らずで、村に空き家が無く、イターンを含め人口は減っております。逆に増えているとのこと。スイカのブランド化に尽力し、村を活性化しようとする元気な『母ちゃんグループ』の存在がそこにありました。案内された所は、過去に保育園としても使っていた廃寺をそのまま目的施設に改装した癒しの会場で、手作り料理はイタリアン。自慢のスイカとピZZアの組み合わせは絶妙で、手探りで村のビジョンづくりに懸命な姿が伝わってきた実のある交流会でした。定住促進を考える参考となりました。



スイカ割り大会

交流の一夜となりました。盆前の『スイカ割り・お絵描き教室』は子供達との交流で温井村のスイカは夏休みの甘い思い出となったでしょう。

遡って、部会活動は2月の『中国餃子とネパールカレーを楽しむ会』、5回目の最終回を迎えた東日本大震災復興支援目的の『ビア・アーベント』これまた町民とボランティア団体の皆さん、そしてドイツビールを提供頂いた西濃シエンカー様、温井村の皆さんにも参加支援いただき、楽しい



飯山市 温井村との交流会

小布施の子どもを見守り育てる。そんな素敵な町をつくらう！ということで、12月12日(土)午後2時から千年樹の里健康福祉センターで、コミュニティスクールを考え出した金子郁容先生をお迎えし、講演会を開催します。お子さんがいる人はもちろん、町民の皆さんに聞いて欲しい講演会です。皆さんお越しください。みんなで一緒に考えましょう。

日本一いい学校、日本一素敵な町をつくらう！

共育を考える部会長 高野薫

コミュニティスクールの提言書を受け、小布施町ではコミュニティスクール検討準備委員会が始まっています。

「子育てするならば小布施町！」地域の大人達が未来を担う子どもを小布施の子としてどう育てていくか、子育ては地域で応援し、町の子として地域も子育てに参加していく。そんなことを真剣に地域として考える時にきています。

激変する時代にどのように対応して、育てていくか。先生にお任せになっていた学校づくりになり、コミュニティの人に加わることで地域の子供達が豊かに育つ。老若男女、誰もが

定住促進を考える

部会について

定住促進を考える部会長 櫻井俊夫

小布施まちづくり委員会の7番目の部会としてこのたび創設され、少子高齢化のなかで町勢の維持を考えることとなりました。一口に定住促進と言っても、移住してもらう条件づくりや転出などによる人口減少対策、子育て環境の整備による活性化などがあり、検討対象は大きな切り口となると思われます。いわばまちづくりを総まとめするテーマではないかと考えられます。

「定住促進を考える」についての小布施町は、国道403号を中心とする商業地区とその周辺の住居地区、さらにそれらを囲む農業地区に分けられると思いますが、各地区にはそれぞれの問題点があると考えられ、同じ解決方策を使えないように感じられます。問題点を抽出するためにも、まちづくり委員のいない周縁の自治会からのご意見も伺いたいものです。

この先、イターン等の移住者を増やすことの方策、出産育児環境の整備等によって人口減少を食い止められるのか否か、または減少するのであればこの町を維持するにはどんな考え方を

金子郁容

日本で一番いい学校

地域連携のイノベーション

共済会

持つべきか、他の部会や町民の皆様のご意見、ご協力をいただきながら、推進して行かなくてはならないと思っております。

見えないものを、意識すること。

安全を考える部会長 西山哲雄

早いもので、前回のまちづくりボイスの発行から、約1年が経ちました。この間、我々は月に1回の部会を開催し、特に最近では、「小布施あるものないものリスト(仮)」の制作をすべく、議論を続けてきました。また、残念ながら今年も、このボイスが届く頃には終了しておりますが、六斎市にてAEDを用いた心肺蘇生法の実演を行いました。

部会での議論はいつも熱く、真剣に、「安全」と向き合っています。議論を続けていく中で分かったこと。それは、「安全」は見えにくい、ということでした。「安全である状態」は、我々の生活においてはある意味「当たり前」で、あって当たり前のものは、なくなってみないとその存在にすら気づきにくいのだと思います。

この町に、どんな「安全」があって、そしてまたどんな「危険」があるのか? 「小布施あるものないものリスト(仮)」の制作は、そこから始まりました。途中、議論は発展し、最終的には、「安全」という範囲を飛び越えたモノゴトまでリストアップすることになりました。その成果のお披露目は別の機会にと思いますが、このリストが、皆様の「安全」な生活に少しでも寄与することを願っております。そのためには、早く最後の仕上げを(私が)しなくては・・・。



心肺蘇生法の訓練



小布施めぐる元気野菜が町中に！ 保育園で食の循環が始まりました

環境を考える副部会長 鈴木宏道

環境を考える部会では生ごみ減量化のため、生ごみの堆肥化を推進・実施(ワークショップ、若手農家による町内の生ごみ回収・堆肥化)してきました。

生ごみ堆肥を使うようになった野菜はビタミン、ミネラルなどの栄養価が高く、農薬も化学肥料も必要なく元気に野菜が育ちます。当部会の若手農家により生ごみ堆肥を使った野菜の栽培もなされており、今年の特格的小布施町に栄養価の高い元気野菜「小布施めぐる元気野菜」が出回り始めております。

また当部会の野菜農家・白澤実さんのご協力によりわかば保育園、つすみ保育園に元気野菜が配達されており、子供たちの給食に使われるようになりました。

保育園からは生ごみを提供していただき、「給食→生ごみ→堆肥→野菜の栽培→給食」という循環が生まれました。小規模ではありますが、当部会が目指してきた循環型社会が実現し大変嬉しく思っております。元気な野菜を食べて子供たちが健やかに育つようお願い、またさらに給食センターでも食の循環が始まるよう努めてまいりたいと思います。このような活動に興味あります方、ぜひとも環境を考える部会にご参加ください！



生ごみたい肥作り ワークショップ

新たなメンバーが新たな風を！

福祉を考える部会長 花村一三

新年度、新たなメンバーを迎え福祉部会を開催する事ができました。それにより福祉に対する考えや発想が今まで以上に膨らみ、気分も一新と言ったところででしょうか。

現在、福祉部会では大きく分けて二つの内容について検討を進めていますので、共有をさせていただきます。一つ目は「認知症」に関する事です。認知症という病名はご存知と思いますが、その症状や対応方法については分からない事が多いと思

います。一人の認知症患者さんを介護者一人だけで対応していくことは大きな負担です。家族の協力や住民が見守る文化を築けたらと考えました。認知症患者さんの徘徊行動の意味や思考を理解することが重要と考え、来年早々には人形劇を交えた勉強会を企画します。大勢の皆様参加を期待いたします。

二つ目は、住民の皆様福祉に関するアンケートを実施させていただきます。今後の福祉部会で検討すべき課題の掘り起こしていきたくと考えました。アンケート内容には「高齢者、障害者、児童、生活困窮者の福祉」について自由なお考えをお聞かせいただければと思いますので、ご協力をお願いいたします。